

ウェディングドレスのデザインに関する研究 (1)

—デザイン分析における基礎的な概念—

Study on the design of wedding dresses (1st report)

—Basic concepts in design analysis—

ブライダル業界、トレンド、ニューヨークブライダルファッションウィーク、ヴォーグ、
ファッション業界

Bridal industry, Trend, New York Bridal Fashion Week, VOGUE, Fashion industry

宮武 恵子、加藤 裕子
Keiko MIYATAKE, Yuko KATO

1. はじめに

ウェディングドレス (英語: wedding dress) は、日本で花嫁衣装といわれるもので、結婚式で花嫁が着用するドレスの総称である¹⁾。ウェディングガウン、ブライダルガウンなどともいう。ウェディングは、結婚式という意味で、フランス語でこのドレスは、ロブ・ドゥ・マリエといわれる。日本では、1960年代中頃にキリスト教式の挙式が人気を集めるようになり、花嫁の和装離れが始まり、それに伴い洋装は増えていった。現在の挙式はキリスト教式が多く、婚礼衣裳需要の多くは洋装 (ドレス) が占めているとされている²⁾。ゼクシィ結婚トレンド調査2018 (以下: ゼクシィ結婚トレンド調査)^{i) 3)}によると、挙式、披露宴・披露パーティーでの新婦の衣裳の種類は、ウェディングドレスが94%で最も高く、次いでカラードレスが65%、色打ち掛けが14%、白無垢が12%であるⁱⁱ⁾。この調査における2011年からの時系列データを参照しても、ウェディングドレスが圧倒的に支持されている。

ウェディングドレスを取り扱う会社は、製造から手がけるメーカーと、流通 (販売・レンタル) のみを手がける会社に大きく分けられる。製造を手がける会社では、製造拠点を中国など

海外に置いて製造コストを削減する、話題性のあるデザイナーと提携するなどして、魅力的な商品の提供を模索する傾向がみられる。またオーダーメイドを主にして素材や形にこだわったドレスを提案するといったデザイナー主導型のドレスショップもある。流通だけ展開している場合は、販売とレンタルの両方を手がける会社、どちらか一方を手がける会社の二通りがある。市場はレンタルが主流なため、レンタルを手がける会社が多い。近年の消費者は要求が高くなり、レンタルドレスとはいえ、非常に高いクオリティやサービスを求める。細やかなサイズ調整に応じたり、最初に袖を通すことができるファースト・レンタルⁱⁱⁱ⁾といったシステムを用意するなど、各社でサービスを工夫し対応している。

共立女子大学 家政学部 被服学科では、卒業論文・演習・制作を必須科目としている。複数ある卒業制作の課題の中で、ウェディングドレスの制作を希望する学生は多く、卒業制作発表会でのショー形式でのお披露目は学内外に好評である。ドレスの制作と発表会は、女子大学・短期大学の被服関連の学部・学科においては、時代が変わっても夢と憧れを抱ける課題として学生のニーズが高い。多くは、被服造形分野を専門としている教員が指導をし、制作プロセス

や作品を題材としている先行研究が多数みられる。一方近年の研究では、ブライダルビジネスの変遷、マーケティング、企業の事例を用いて検証するなどの研究が複数みられる。しかし、これらの先行研究において、ウェディングドレスのデザインについて論じている研究は少なく、詳細まで深く掘り下げている研究は十分とはいえない。そこで、ウェディングドレスのデザインの研究は意義があるのでないかと仮説をし、ウェディングドレスを取り扱うメーカー3社、流通企業の担当者、オーダーメイドを行っている個人経営者にヒヤリングを行った。その結果、業界特有の概念や実態、現在の市場動向などの情報を得ることができた。具体的な例をあげると、市場規模、首都圏と地方のニーズの違い、挙式会場とレンタル・購入先との関係などのブライダル業界における基本的な情報である。またウェディングドレスの価格や素材の調達方法も含めた商品企画、パターン設計、生産拠点などの製品設計のプロセスまで詳細にヒヤリングできた。ウェディングドレスは花嫁の好みで選ばれるとはいえ、ファッション業界にみるような大きな流行の変化はないが、トレンド^{iv)}はあると述べている。また、調査の中で、特に注目したのは、今までにはみられなかった現象として上がった首都圏においてのドレスの選択の仕方についてである。例えばドレスを探す際に、業界の専門職が入手する情報と同じ情報を入手していて、その情報を基にして自身が着用したいドレスを具体的に提示し、類似したドレスを求めるといふ。持参する情報の多くが、SNSで入手したニューヨークブライダルファッションウィーク (NYBFW) から得たものということである。ニューヨークブライダルファッションウィークは、ニューヨークで年2回、春と秋に開催される。ドレスを提案・提供するブランドが、最新の作品発表のための場、いわゆるコレクションである。日本のブライダル業界では、新しいドレスの提案を行うために、様々な情報収集を行っているが、その中でもニュー

ヨークブライダルファッションウィークは、主な情報源であるとしている。ブライダル業界においても企画発想するためには、ファッションウィークで発表される情報が重要であるという類似した概念があること、またそれらの情報を基に自身のドレスを探す消費行動がある実態に着目したい。

文献や先行研究によるとドレスのデザインは、著しい流行の変化があまりみられず、花嫁の好みの型が選ばれるとされている。前述したゼクシィ結婚トレンド調査では、ウェディングドレスの手配方法や検討の仕方、それらに伴う行動に関する調査を行っている。ドレスのデザインに関連する設問の事例と結果を挙げると、①ウェディングドレスを決定する際の重視点を尋ねる設問の結果は「デザインが良いこと」が93%と圧倒的に高く、次いで「スタイルが良く見えること」が47%、「後ろ姿が映えること」が43%。②希望していたウェディングドレスのラインを尋ねる設問ウェディングドレス結果は「Aライン」が81%で最も高く、次いで「プリンセスライン」が58%。③着用したウェディングドレスのラインを尋ねる設問では「Aライン」が57%で最も高く、次いで「プリンセスライン」が33%と実態がわかる。これらの傾向は、2011年からの時系列推移をみても大きな変化はない。一方、日常着装するアパレル製品は、毎年のトレンド情報が発信され、その情報と実績をもとに商品企画を行なっている。特に近年においては、トレンドの移り変わりは早くなったといわれている。これらの状況を総合的に鑑みると、ブライダル業界のトレンドの変化の実態は、ファッション業界と比較すると毎シーズン変わるといった大きな変化がみられないのではないかと推測する。

ウェディングドレスを検討する際に利用する情報源の設問では「結婚情報誌」「結婚情報サイト」の支持が高い。結婚情報誌の中で圧倒的な売り上げである『ゼクシィ』がプロデュースする【ゼクシィ net】では、人気スタイリスト

&エディター^{v)}が、その年のドレスのトレンドを紹介している。「3Dフラワーモチーフは昨年に引き続き立体感がさらに強調されている」「大小でグラデーションをつける」「透け感のある素材につける」「オフショルダーは、肌を透けさせながら二の腕まわりをふわっと飾る」「肩は出してゆるとした袖や平揺れケープをまとうスタイル」「トレーンにも見えるマントやマーメイドラインのドレス」などを提案している⁴⁾。また、1867年にニューヨークで創刊した世界最古の女性向けファッション雑誌『Harper's BAZAAR』の公式サイトでは、2019年5月19日のハリー王子&メーガン妃の結婚式をロイヤルウェディング^{vi)}と題して取り上げている。メーガン妃が着用した首が詰まっているハイネックやボトルネックのディテールや肌の露出が極力少ない正統派ドレスのようなクラシカルなスタイルは、世界中の花嫁が注目すると紹介している⁵⁾。また、ハリー王子&メーガン妃が結婚式を挙げた翌週に、アメリカのブライダル専門サイトのDavid's Bridalでは、メーガン妃が結婚式で着たStella McCartneyのモダンなハイネックのドレスに似ている2タイプのウェディングドレスの売り上げが急速に伸びたと述べている。2015年から取り扱っているが、人気は急上昇した理由としてメーガン妃の影響を受けているとしている。他にも着用していたGIVENCHY (Clare Waight Kellerのデザイン)のワイドなボートネックのごくシンプルなドレスを例にあげて、装飾過剰のドレスから、よりシンプルなデザインへと人気は方向転換すると予測している。

2. 研究目的

ここまでの文献及び先行研究、ブライダル業界情報、さらに業界における消費者の意識の実態や製品設計のプロセスなどをヒヤリングした調査から、ブライダル業界におけるウェディングドレスの概念について、概括的ではあるが、捉えることができた。

消費者の意識は、華やかな晴れ日の衣装として装うための1点を選ぶため、日常着装するアパレル製品とは異なる概念を持っている。また挙式会場とブライダル衣装との関係などの業界独特の考え方もある。一方、ファッション業界と同じように、市場に提案するための製品発想のための情報がファッションウィークであることは注目すべき点である。その他に、ロイヤルウェディングの影響を受けたドレスの現象や業界専門サイトにおけるドレスのトレンドの提示方法などは、ファッション業界と類似している。これらは、大きな流行の変化はみられないとされているウェディングドレスのトレンドを示唆する現象である。

先行研究では深められていないウェディングドレスのデザインの研究は、研究及び情報収集の方法が変容した現在において、業界への提言として意義があると考ええる。第1筆者は、アパレルメーカー、OEM・ODM^{vii)}におけるデザイナーとして、また企画提案を行ってきた業務経験から得た知見を生かしてファッション・デザイン及び企画、ファッション感性などの研究を行ってきた。筆者が行なってきたファッションに関する研究と同様の視点で分析を行うことで、ウェディングドレスのデザインについての研究は独自性が期待できる。

これらを踏まえて、本研究は、大きな変化はないが緩やかな変化と仮説できるウェディングドレスのトレンドとデザイン(形・色・素材など)について明らかにすることを目的とする。トレンドのデザイン表現を明らかにするためには、一過性で論じるのではなく時系列推移に伴う変化を分析しなければならない。そのため、継続的なデータの分析が必要と考える。そこで、まず本研究では、継続研究を念頭において、ウェディングドレスにおけるデザインの基礎的な概念を整理してまとめ、デザイン分析の方法について検討をする。

3. 研究方法

研究方法は、2つの方法を用いる。

まずウェディングドレスのデザインについて、定義と解釈を文献から示す。また、多くの書籍を精査してまとめた先行研究⁶⁾、業界の専門職を育成するための文献^{7) 8)}、業界資料⁹⁾を整理してウェディングドレスにおけるデザインの概念を検証する。そしてアパレル・デザインのシステム構成の理論¹⁰⁾に基づき、デザインの造形要素である色・素材・形態に分けて、基礎的な概念を整理する。素材は、[weight] [drape]「厚さー薄さ」「硬さー軟らかさ」などの物質的特性と「光沢感」などの質的特性¹¹⁾に加えて、生地組織や密度の構造的な加工で生み出されているテクスチャーⁱⁱⁱ⁾について検討する。分析した結果からウェディングドレス

で一般的に使われている素材を類型化する。さらに、造形要素の中で最も重要な要素である形態に注目し、形態を構成するシルエットとディテールを検証し、特徴を捉える。

次にウェディングドレスのトレンドについては、『VOGUE JAPAN』の公式サイト^{ix)}のコンテンツWedding¹²⁾で発信されているニューヨークブラダルファッションウィークのプライダルトレンドレポートを分析資料とする。『VOGUE JAPAN』は、1892年に米国で創刊された『VOGUE』の日本版で、1999年7月に日経コンデナスト（現在のコンデナスト・ジャパン）より創刊され、ウェディング情報に特化した『VOGUE wedding』^{x)}は2012年秋に創刊された。フランスのモード誌『ELLE』のウェディング情報誌『ELLE marriage』と並び、『25ans Wedding』『MISS Wedding』などの国内情報

見出し	MODERN MERMAID トレンドの最前線にマーメイドが鮮やかにカムバック！
作品	
デザイナー名	〈左から〉RIVINI BY RITA VINIERIS、INBAL DROR、GALIA LAHAV、AMSALE
詳細	それは一種の揺り戻し？ 少なくともこの3年はトレンドからまったく外れていたマーメイドシルエットがランウェイを再び席卷。ここ数シーズン、イリュージョンレースやユニークなフォルムなど「フォトジェニックなドレス」のブームを経て、再びマーメイドが持つドラマティックなシルエットに注目が集まった。いずれもスーパーフェミニンなマーメイド。このリバイバル・トレンドは来季以降もしばらく続く予感。

図1 2019年春夏・プライダルトレンドレポートの事例（画像はスケッチに置き換えて表記）

誌と比較すると、お洒落でモードな情報を紹介しているとされている¹³⁾。『VOGUE』は、世界で最も影響力のあるファッション雑誌と称され¹⁴⁾、2016年に発表された『VOGUE JAPAN』の公式サイトは、2016年2月実績では、女性ファッション系サイトで支持が最大であると発表している¹⁵⁾。『VOGUE JAPAN』の公式サイトのコンテンツWeddingでは、ニューヨークブラダルファッションウィークのトレンド情報は、遡って時系列資料が閲覧できる。またファッション業界において『VOGUE』の発信するトレンド情報は、よく活用され信頼性のある情報とされている。これらの理由から、本研究においての分析資料として妥当であると判断した。

ブライダルトレンドレポートは、春夏と秋冬シーズンに分かれ、年・シーズンにより異なるが、10から17のトレンドが提示されている。それぞれのトレンドは、その特徴を約25文字の見出しで示し、そのトレンドを表現している作品とデザイナー名、さらに詳細を説明する構成になっている(図1)。本分析では、2019年ブライダルトレンドレポートの春夏・16トレンド、秋冬・15トレンドを対象とし、見出しに記述されている単語を抜粋して項目別にデータ化する。項目は、[イメージ] [デザイン] [アイテム]

とし、[デザイン] は〈色〉〈素材〉〈形態〉の他にウェディングドレスの特徴でもある〈装飾〉も加える(図2)。さらに〈形態〉は、[シルエット] [ディテール] とし、[ディテール] は、《ネックライン・カラー》《スリーブ》^{xi)} 《その他》に分類する。データを検証して、2019年のドレスのトレンドの傾向を導き出す。また、今後は継続して時系列で分析するため、分析方法の検討も合わせて行う。

4. 研究結果

4-1. デザインの特徴

4-1-1. 色・素材

ウェディングドレスの色について、多くの文献によると、歴史的背景から今日に至る一般的な概念を説明している。古代ローマ時代にはローマ人は花嫁に炎色のヴェールを用い、キリスト教徒は白または紫の衣装をつけたが、18世紀以降は、その白を用いる習慣が続き、今日洋装の花嫁衣装といえば誰もが純白で、白が一般的な常識となっている。【ゼクシィ net】によると、白は〈ホワイト〉〈オフホワイト〉〈アイボリー〉〈シャンパン〉の4種類があるとしている。〈ホワイト〉は、混じりけのない純白な白、〈オフホワイト〉はほとんど白に近いが純白よ

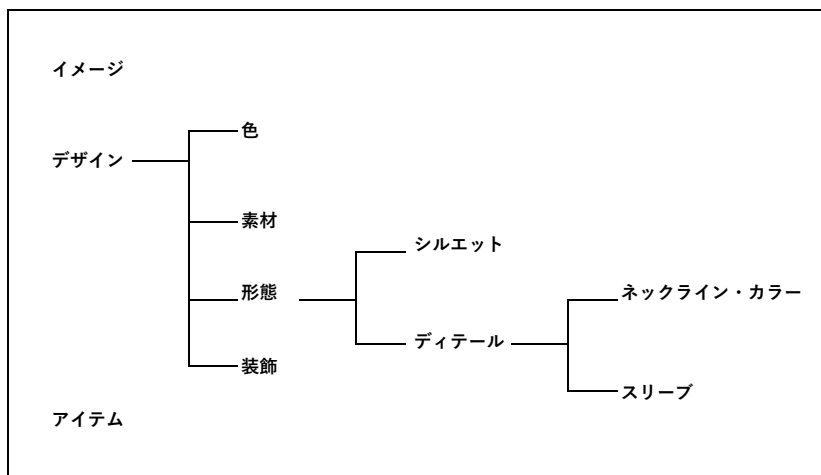


図2 分析項目

り淡く黄色や灰色が入っている。〈アイボリー〉は〈オフホワイト〉よりさらに黄色味の強い色で象牙色ともいわれる。〈シャンパン〉は、シャンパンに由来する色で、透明感のある黄金の白色である。また、白の色は、素材により光沢などが異なるため、色は微妙に違って見える。

ドレスに用いられる主な素材は文献によると(表1)のように示されている¹⁶⁾。その中の主な素材について、前述した物質・質的特性及びテクスチャーを生かした形や見え方の表現を検討すると6つの素材特性に分けることができる^{17) 18)}。①光沢がありドレープを出しやすい〈サテン〉や〈ジャガード〉などの素材。②光沢が抑えめで張りがある〈シャンタン〉や〈タフタ〉などの素材。③生地表面の細かいシボが特徴で、光沢はあまりなくシャリ感があるが、柔らかくドレープ性がある〈ジョーゼット・クレープ〉などのクレープ素材。④軽さと透け感のある素材は、〈シフォン〉〈オーガンジー〉〈チュール〉などの素材。⑤透ける特性を持ちながら装飾性も強く印象付ける〈レース〉。⑥光沢があり毛足がある〈ベルベット・ビロード〉〈ペロア〉などの素材である。これらにあげた素材は、シルク、またはポリエステルなどの化学・合成繊維の生地である。以下、代表的な素材について、

特性とウェディングドレスを形作る上での関連事項および表現特性を合わせて記述していく。

まず、光沢があり、ドレープを出しやすい素材についてである。ドレスによく使われる〈サテン〉は、裏面がサテン(朱子織)になった〈バック・サテン〉が多く用いられる。美しい光沢があり、綺麗なドレープが出しやすい。また、通常のサテンと別格とされている最高級の〈ミカド・シルク^{xii)}〉は、柔らかな光沢と真珠のような輝きがあり、正統派ウェディングにふさわしいとされている。地厚な〈シルクサテン〉で、〈サテン〉ではあるが綾目のような織りがあるのが特徴である。シルクならではの気品ある光沢と張り感があり、美しいフォルムを表現できる。ジャガード織機で織る〈ジャガード〉は、複雑な模様が浮き上がった仕上げで透明感があり軽くて柔かい。〈サテン〉と同じようにドレープが綺麗に出る。

光沢が控えめで張りのある素材の〈シャンタン〉は、横糸に太い節糸を使い、織物の表面の横方向に節が不規則にみえるのが特徴である。生地のドレープ感を表現するより、しっかりと形を形成するのに適した素材である。〈タフタ〉は張り感があり、光の反射やみる角度により変化して見える。立体感が出しやすい素材で、ギャザーを寄せることで見栄えがする。

生地表面の細かいシボが特徴で独特のシャリ感とドレープ性のある〈ジョーゼット・クレープ〉は、ドレープはもとより、細かいギャザーやプリーツも出しやすい。[スレンダーライン]や[マーメイドライン]などの優雅なイメージを表現する際に使われることが多い。

透け感があり薄くて軽い〈シフォン〉や〈オーガンジー〉は、微妙に風合いが異なるためシルエット及びディテールやイメージにより使い分ける。〈シフォン〉は〈オーガンジー〉ほど透け感はなく、軽いため、ドレープも綺麗にできるのが特徴で、〈サテン〉のような重みのある生地の上から重ねて使われることが多い。一方〈オーガンジー〉は、〈シフォン〉より透け感が

表1 素材の種類

素材名	
オーガンザ	ジョーゼット・クレープ
オーガンジー	タフタ
クレープ・デシン	チュール
クレボン	ファイユ
グログラン	フロッキー
ゴーズ	ベルベット・ビロード
サテン	ペロア
サテン・クレープ	マトウラッセ
シフォン	モアレ
ジャガード	レース
シャンタン	ローン

あり適度な張りがある。スカート部分に用いられることが多く、透け感と軽さを生かして生地をたくさん重ねてボリュームを出したり、フリルとして使われる。〈オーガンジー〉の中でも一般的な〈オーガンジー〉と比べると輝度が高く柔らかい〈グラスオーガンジー〉は、その特徴を生かして効果的に使う。〈チュール〉は、軽くて透け感があるため二重三重に重ねても透けて重い印象にならず、スカート部分に重ねると豪華な雰囲気にもなる。またドレスの膨らみを出すためのパニエやスカート部分の裏地と表地の間でよく使われる。ドレスの飾りやベールに使われることも多い薄手で柔らかい〈ソフトチュール〉と厚手で張りがある〈ハードチュール〉の2種類がある。

透けるとともに模様により雰囲気が変わる装飾性がある〈レース〉は、糸を捻りあわせたり、組み合わせたりして、網状の透かし模様に作られた布で、ウェディングドレスには欠かせない生地である。手製、機械製など手法により特徴が異なり、その特徴を生かして用いられる(表2)。また、全体に使う豪華な印象の総レース

はもとより、例えば胸元、背中や袖などに部分的に使ったり、使い方により透ける透けない効果が表現できる。機械で編む〈レース〉の中でも最高級とされている〈リバー・レース〉は、ごく細い糸をいろいろな模様捻りあわせ作り、糸をたくさん使う上に機械の速度が遅く、最高の技術を必要とするので、かなり高価である。〈レース〉の中の糸一本一本がとても細いので繊細な仕上がりで、透け感があるため、〈レース〉の下に別の生地を重ねて変化を楽しむ。また、重ねないで使う場合は、例えば裾にあしらうと脚が透けてみえるなどの効果で美しさを表現できる。〈エンプロイダリー・レース〉は、布や〈チュール〉などに穴を開け、その周りを光沢のある糸や箔糸で刺繍された〈レース〉である。穴が開いているので下が透ける、また凹凸があり立体感のある〈レース〉は遠くからみても存在感がある。〈レース〉の中で最も広範囲に使用され、様々な加工がしやすい。〈チュール(六角形の網目:メッシュ)〉に刺繍などをほどこした〈チュール・レース〉は、総レースとして用いたり、部分的にまたは広範囲

表2 レースの種類と特徴

レース名称	特徴
エンプロイダリー・レース	刺繍レースのこと。特に大型のエンプロイダリー・レース機によって刺繍加工を施したレースを総称する。編みレースよりも表現が自由で、さまざまな糸やテープで立体感のある特殊加工ができる。
カット・レース	透かし技法の一種で、切り抜き刺繍のこと。刺繍を施した後に、輪郭の刺繍部分を残して中を切り抜く。あるいはカットした柄の周辺を糸でかがったもの。この技法で柄を表したレースは、カットワーク・レースという。
ケミカル・レース	化学処理で作られるレースで、エンプロイダリー・レースの一種。湯で溶ける水溶性ビニロンなどを基布(土台の布)にエンプロイダリー・レース機で刺繍を施した後、基布を溶解し、刺繍糸のみを残す。ウェディングドレスやフォーマルウェアに使われる。モチーフを切り離して、立体装飾に使うことができる。
コード・レース	紐状cordのもので、チュールや布地にコード刺繍を施したレースの総称。一般的には細いコードでモチーフの輪郭を刺繍し立体的なものをいう。
チュール・レース	チュールを基布にして、模様を編み込んだり、刺繍などを施したレース。
ラッセル・レース	たて編みのラッセル編み機で作られるレースの総称。従来の編み機を使った編地に比べると薄く平らに仕上がり、透かし穴のある柄を編み出すのが特徴。
リバー・レース	リバーレース機で作るレース。非常に繊細かつ優美で、レース地の中で、最もランクが高いとされている。糸を多く使用し、手間も時間もかかるため、高価なレースである。

で使われる透けてみえる繊細な薄い生地である。薄く平らな仕上りの〈ラッセル・レース〉は、スカラップをほどきたものなどの種類も増え、より高級感を追求する傾向で、総柄のバリエーションが多くなっている。その他、特殊な化学処理で模様を浮き上がらせる〈ケミカル・レース〉、刺繍をしていない部分を切り抜いた〈カットワーク・レース〉、〈チュール・レース〉や〈リバー・レース〉の上にコードで刺繍をした〈コード・レース〉は、〈レース〉の上からさらに模様を重ねることで立体感があり、より印象的な表現ができる。また、金糸や銀糸を〈レース〉に織り込んだり、少しの光でも煌びやかに輝くようなクリスタルビーズやスパンコール、ビジュを散りばめたりなどのバリエーションもほどこせる。

光沢があり毛足がある〈ベルベット・ピロード〉や〈ペロア〉は、柔らかくドレープも出しやすい。全体に使うより、例えばウエストのベルト部分やリボンに使うなどのアクセントとして使われることが多い。軽い生地と合わせることで独特の重みが軽減されて豪華なイメージを表現できる。

4-1-2. 形態

ウェディングドレスの形はワンピース仕立てである。ワンピースとは、上下が縫いあわされていても切替線ではぎあわされていても、全体がひとつづきになっていて、1枚の構造になっているドレスのことである。ドレスは、胴着の部分とスカートの部分から構成される上下続きになったものをいう。つまりウェディングドレスは、上下が縫いあわされていても切替線ではぎあわされていても、全体がひとつづきになっていて、1枚の構造になっている。丈が長く、床にトレーンといわれる裳裾をひくのが普通とされるが、流行によって床までのものや、床よりやや短め、また膝まで、あるいはミニスカートのものまでバリエーション豊富である。教会で式が行われる時には、宗教的な式典とされる

ため、肌をあらわさないものが用いられるので、首がきっちりつまっているようなハイネック、袖も長く、手首までのものとされていた。しかし、時代の変遷、社会情勢や挙式形態の変化に伴い、前述したような概念は絶対的なものではなく、自由に様々なデザインが選ばれるようになっていく。

ウェディングドレスにおけるデザインの表現で重要なことは、こまかい切替線や飾りではなく、全体のシルエットによって美しさをあらわすことにあるとされている。前裾を靴で踏まないように、床から3～4センチ高くしておくなどの配慮も必要である。

シルエットの名称とその概要をまとめ(表3)、特徴を捉えるために縦軸をフィットとルーズ、横軸を直線的と曲線的として示した(図3)¹⁹⁾。[ビックシルエット]や[テントライン]のような極端に大きなシルエットはなく、ルーズなシルエットより身体に沿ったフィットしたシルエットが多い。身体につかず離れずの[レクタングラーライン]以外は、上半身は身体のラインに沿い、ウエストを細く絞るか緩やかか、スカート部分の形状は裾に向かって広がる度合いと膨らみにより形作られている。ウエストの位置が高い[エンパイアライン]と[Aライン]は緩やかに裾が広がる。ウエストを細く絞る[フィットアンドフレア]はスカート部分にフレアやギャザーで、[ベルライン]はスカート部分をパニエで膨らませて、曲線的な印象が強くなる。腰を大きく後ろに張り出し強調する[バウスルライン]は細さとボリュームのコントラストが強調される個性的なシルエットである。また身体にフィットしたラインから膝から下が人魚の尾びれのように広がった[マーメイドライン]は、S字を想像させる曲線を描く女性的な印象のシルエットである。

ネックのデザインは、カラーがあるものよりビスチェも含めたカラーのないネックラインのバリエーションが豊富である(表4)。ネックラインは、《ジュエル・ネック》のように首に沿っ

ウェディングドレスのデザインに関する研究 (1)

表3 シルエットの名称と概要

名称	概要
Aライン	上半身が小さく、裾に向かってアルファベットのAの文字のように広がっている。ウエストが高い位置にある。
アワーグラス	細く絞ったウエスト。ウエストからヒップにかけて身体に沿わせてあり、そのまま自然に下垂せたものや大腿部や膝の途中から広がりを持たせたもの。
エンパイアライン	19世紀初頭ナポレオン第一帝政時代にジョセフィーヌ皇后が愛用していた。古代ギリシャスタイルを源流にしたハイウエストのシルエット。バストラインのすぐ下に切り替えがあつて円筒形に近いシルエット。
スレンダーライン	身体のラインに沿った細身のシルエット。多少ゆとりのあるものは「ソフトスレンダー」という。
トラペーズ	台形あるいは梯形シルエットともいう。肩から裾にかけてのシルエットが次第に裾広がりになったもの。
パッスルライン	パッスルという腰あてを使ってドレスの腰を後ろに大きく張り出して強調したスタイル。明治時代に「鹿鳴館スタイル」とも日本で呼ばれた。
フィット・アンド・フレアー	細く絞ったウエスト。スカートにフレアやギャザーを入れ膨らみを持たせたもの。
プリンセスライン	イギリスのエドワード7世の王妃アレクサンドラが皇太子妃の時代に愛用したことで名がついた。上半身はフィットし、ウエストから裾にかけて広がるフレアが特徴。ウエストに切り替えが無く、肩から裾にかけて縦の切り替えだけで広がりを作り出したスタイル。
ベルライン	ヨーロッパの宮廷貴族のフォーマルウエアとして発展してきた、最も伝統的なデザイン。ウエストを細く絞り、スカートをパニエで大きく膨らませた、ベル型のシルエット。
マーメイドライン	上半身から膝のあたりまでは体の線にフィットさせ、膝下から裾に向かってフレアギャザーで、マーメイドの尾びれのように広がっているシルエット。
レクタングラー	「長方形の」という意味。身体につかず離れずまっすぐな直方形のシルエット。

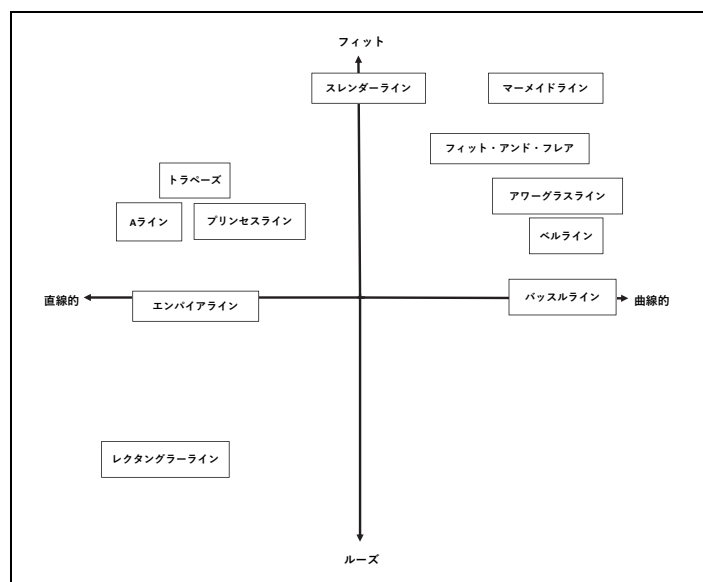


図3 シルエットの特徴

たものより、横を広げたり前を深くしたくりが大きい種類が多い(図4)。くりの形は、丸、角などもみられるが、可愛らしい印象の《ハート・シェイブド・ネック》、装飾的な《スカラップ・ネック》、肩をみせる大きくえぐれた“デコルテ”やバストの見頃をカットした《キャミソール・ネック》なども特徴的である。カラーは、首のまわりに沿ってたっている《ハイ・ネック》、首に沿い首の付け根からなめらかに立ち上がった《ボトル・ネック》、首から離れて立っている《オフ・ネック》、見頃から立ち上がった衿により形作られる《ロール・ネック》が代表的な衿である。カラーもネックラインも顔の近くにあるものだけに、顔を引き立たせるものでなければならない。日常着用する際にもデザイン

のポイントとして考えられるが、人生の主役である花嫁を際立つように美しい形状になるようにデザインの要となる。

スリーブのディテールを、袖丈・袖幅・アームホール・形態・ショルダーラインの項目でまとめた(表5)²⁰⁾。袖丈は長いものより短いものが多く、袖幅は細いものは少ない。スリーブは、外観上目立つ箇所であるため、装飾的な効果もあり様々な形態がみられる。多くは身頃と別に作られ、肩で縫いつけられる構造のものであるが、《キャップ・スリーブ》や《フレンチ・スリーブ》のように身頃続きのものもある。袖口に装飾的な役割で用いられるカフスは、スリーブの形に合わせて太さや細さなどを検討する。

表4 ネックライン・カラーの名称と概要

	名称	概要
ネック ライン	Vネック	V字型のエリア期の総称。縦ラインを強調し、首を長くスッキリと見せる。
	オフショルダー	「肩から離れている」と言う意味。ネックラインが肩より下に位置し、両肩は露出した状態で、帯状の生地が上腕の一部を覆うように付いている。
	オブリーク・ネック	「斜めの」という意味。斜めにカットされたアシンメトリーなネックライン。ワンショルダー
	キャミソール・ネック	バストの少し上で身頃をカットし、ストラップをつけたもの。
	ジュエル・ネック	ラウンドネックの一種。襟ぐりのラウンドがTシャツのように小さい。ゆるやかな半円を描く丸い襟ぐり。
	スウィートハート・ネック	ハート・シェイブド・ネックよりも深くハート形の切り込みを入れたもの。
	スカラップ・ネック	帆立貝のように波型にカットされたネックライン。
	スクエード・ネック	ラウンドネックの一種。襟ぐりのラウンドが大きく深いもの。ゆるやかな半円を描く丸い襟ぐり。
	スクエア・ネック	四角に切り取ったような形。シャープな印象。鎖骨から胸元をスッキリ美しく見せる効果がある。
	スラッシュド・ネック	水平に一直線にカットされたネックライン。
	デコルテ	衿をえぐり胸元を大きく開け、デコルテを強調したネックライン。
	ドレープ・ネック	ゆったりとしたひだの入ったドレッシーなネックラインの総称。ひだの入れ方は様々。
	ハートシェイブド・ネック	ハート形に切り込まれたネックライン。
	ハートカット	ハートの上半分のような形。
	ビスチェ	肩紐のない丈の長いブラジャー。首から胸元、背中を大胆に露出したデザイン。
	ボート・ネック	舟の形に鎖骨に沿って長く浅く緩やかな曲線で横に広くカットされたネックライン。
カラー	ホルター・ネック	もともと牛や馬の口につけて引く綱のことをいう。前身頃から続いた布や紐で、身頃を首からつるすようにして、肩や背中を大胆に露出するデザイン。
	オフ・ネック	首から離れて立っているネックライン
	ハイ・ネック	身頃からまっすぐ首の上まで立ち上がった襟によって作られるネックライン。スタンドカラーとも呼ばれる。
	ボトル・ネック	首に沿ってボトル(びん)の口のように立ち上がったネックライン。
	ロール・ネック	身頃からまっすぐ首の上まで立ち上がった襟によって作られるネックライン。襟が折り返しのあるもの。

ウェディングドレスのデザインに関する研究 (1)

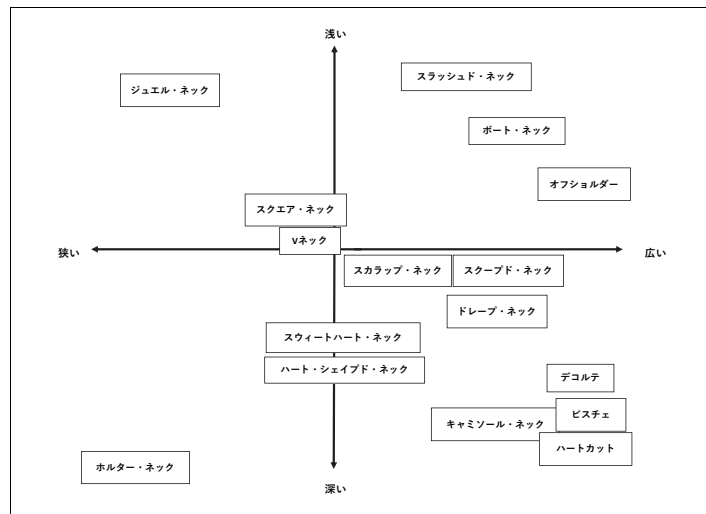


図4 ネックラインの形状の特徴

表5 スリーブの名称と概要

	名称	概要
袖丈	アメリカン・スリーブ	首から脇の下まで大きくカットされたノースリーブ型のデザイン。後ろにも前と同じ身頃がある。
	ショート・スリーブ	五分より短い袖のこと。
	ノー・スリーブ	袖なしのこと。スリープレスともいう。
	ハーフ・スリーブ	五分袖のこと。ちょうど肘のところまでの袖をいう。
	ロング・スリーブ	肌の露出を避けた長袖。教会の挙式に適している。正統派。
袖幅	タイト・スリーブ	細い袖をいう。
アームホール	キャップ・スリーブ	肩先がかくれる程度のごく短い袖。
	フレンチ・スリーブ	袖付けの切り替えしが無い。ごく短い袖。
形態	ウイング・スリーブ	鳥の翼のように大きく広がったもの。
	シース・スリーブ	鞘のように細長い袖のこと。
	ジゴ・スリーブ	正式名所「マンシュ・ア・ジゴ」という。フランス語で羊の脚を意味する。袖の上部から膨らみ肘あたりから手首に向かってびったりと細くなっている。
	チキン・レッグス・スリーブ	鶏の脚のような形をしたもの。袖山にボリュームがあり袖先にかけて細くなっている。
	ティアード・スリーブ	切り替えて何段か生地を重ねた袖のこと。
	パコダ・スリーブ	東洋諸国に見られる仏塔のこと。袖付けから肘までは細めで袖口に向かってラッパのように広がった袖である。クラシカルで優美なイメージ。
	パフ・スリーブ	膨れたものを意味する。袖付けや袖口などにギャザーやタックを入れて膨らませた袖のこと。日本では「ちょうちん袖」ともいう。
	ベル・スリーブ	釣り鐘（ベル）のように裾広がりの袖のこと。
	ポインテッド・スリーブ	袖口が手の甲までありV字に尖った袖のこと。
	レッグ・オブ・マトン・スリーブ	羊の脚のような形の袖をいう。
ショルダーライン	ワンショルダー	片方の肩は露出し、片方を布地で覆ったスタイル。

4-2. 2019年のデザイン・トレンド

抽出した全単語66の内訳は、デザイン 31・イメージ 27・アイテム 8の順である(表6)。デザインは、形を示す単語が71%と圧倒的に多い。形の内訳はディテール86%、シルエットは14%と、ディテールの記載が多い。以下、2019年のトレンドとして特徴的な用語をあげて検証する。

ディテールは春夏・秋冬ともに《オフショルダー》《ロング・スリーブ》、秋冬は《パワーショルダー》などのリアルクローズ^{xiii)}のトレンドと関連した用語がみられる。《オフショルダー》は、2017年頃からプレタポルテにおけるファッションウィークの影響を受けて、ブライダルのショーでもトレンドとなっていると記述されている²¹⁾。2019年春夏は〈レース〉を使って透ける効果やコルセット風トップなどのドレス、秋冬はラッフルを使ったデザインが取り上げられている。2018年秋冬シーズンに提案した《オフショルダー》とは異なる素材やディテールを加えてデザイン表現を変化して提案していると推測する。一般的なリアルクローズにおけるファッショントレンドの表現でもよく用いられる、いわゆるトレンドを進化させて次シーズンに提案する表現である。《ロング・スリーブ》は、春夏は、ロイヤルウェディングの影響を受けて、肌の露出をごく控えめにして繊細な〈レース〉や上質なシルクを使ったドレスが多くのショーで登場している。一方秋冬の《ロング・スリーブ》は、これまでにない極端に長い丈で、〈レース〉やビーズの装飾が施されていてデコラティブなスタイルとして提案されている。《パワー

ショルダー》は、強さを感じさせるショルダーラインで、1980年代に見られる大きく張った肩線などに代表される²²⁾。2017年頃のプレタポルテのショーでトレンドとして提案され、現在までディテールをわずかに変化させながら継続しているトレンドである。2019年秋冬のブライダルトレンドレポートでは、《パワーショルダー》は新しいトレンドとし、この事例の解説では、プレタポルテで提案された新しいトレンドは、2シーズン後にブライダルのトレンドとなると記述している。

その他、リアルクローズのファッショントレンドと関連している用語では、〔スリット〕の記載がみられた。春夏は「深く入れたスリット」とし、太ももまで切れ込んだ深いスリットは、〔マーメイドライン〕と連動していると説明している。〔マーメイドライン〕は2019春夏では数多く提案されているとの記述もみられる。秋冬も「深く開けたスリット」の提案があり、春夏の表現を継続しながらもさらに大胆に〔スリット〕を用いている。ここで用いられているドレスのシルエットは〔マーメイドライン〕だけでなく、〔フィット・アンド・フレア〕のようにふわっとした形状のものにも提案されている。これらのドレスは、柔らかい素材で作られているため、深く開けた〔スリット〕は、歩くたびに脚がのぞく効果がある。

シルエットで強調して取り上げられていたのは〔マーメイドライン〕のみである。〔マーメイドライン〕以外の画像を参照すると〈Aライン〉〈プリンセスライン〉のように上半身は身体のラインに沿い、ウエストを細く絞るか緩やかでスカート部分の形状が裾に向かって広がるシルエットが多い。【ゼクシィ net】の“2019年最新版人気ウェディングドレス&カラードレス総まとめ”によると、1位は〔Aライン〕、2位は〔プリンセスライン〕、3位は〔マーメイドライン〕である。〔マーメイドライン〕は「トレンドの最前線にカムバック」と記載され^{xiv)}、現在の一般的なブライダル市場においての実態

表6 抽出単語内訳

項目	数
デザイン	31
イメージ	27
アイテム	8
計	66

が理解できる。ここで提案されている画像とブライダルトレンドレポートで取り上げられている画像を参照すると、シルエットの類似性がみられ整合性が取れている。常に提案され、人気があるシルエットは「Aライン」「プリンセスライン」、「マーメイドライン」は2019年のトレンドであると推察できる。

アイテムのトレンドは春夏・秋冬ともにケープが取り上げられている。春夏はマントのように長い「ロングケープ」をヴェールのような趣があるとし、「レース」や「ビジュ」を用いてこれまでよりゴージャスに仕上げている。一方短い丈のケープの提案もある。こちらは「ケープ」をつけたりとったりなどの変化を楽しめるアイテムとして用いている。秋冬は、春夏に引き続き長い丈の「ケープ」を華美になりすぎないようにして、多くのデザイナーが取り入れたという。

イメージは、27語中「モダン」が3回、「セクシー」が2回使われている。モダンは“近代的な”“現代的な”“新感覚の”などの意味である²³⁾。ウェディングドレスには一般的には用いられないパンツスタイルやジャンプスーツの提案などを「モダン」としている。春夏・秋冬とも「セクシー」は「スリット」のディテールと連動していると考えられる。「スリット」は前述したようにスカート部分が深く開けられているので脚が露出されるため「セクシー」なイメージが強調される。

ファッションイメージ用語の先行研究における類型²⁴⁾を参考に27語を分類した。その結果、「モダン」「ストイック」「インパクト」などの斬新なイメージをあらわす用語が44%、「キュート」「グラマラス」「エレガント」などの女性らしさを示す用語が33%、その他の用語の「クラシック」「ナチュラル」などは極端に少なく、ばらけている結果となった。

5. まとめと考察

本研究のまとめとして2つのことがいえる。

考察と今後の課題も含めて記述する。

継続研究のためのデザインの基礎資料の整理をし、ウェディングドレスのデザインの概念について明らかにした。色は白が一般的、代表的な素材はサテン、ジャガード、タフタ、シフォン、オーガンジー、レースなどである。形は一枚の構造になっていて、かつては教会で式が行われる時には、宗教的な式典とされるので、肌をあらわさないものが用いられていた。時代の変遷、社会情勢や挙式形態の変化に伴い、自由に様々なデザインが選ばれるようになっていく。シルエットは、上半身はフィットして下半身は適度な、また過度なボリュームを要したものが多く、ネックのデザインは、カラーのあるものよりビスチェも含めたカラーのないネックラインのバリエーションが豊富である。また、袖丈は長いものより短いものが多い。適度な肌の露出があるディテールが多いといえる。これらの結果は、一般的に抱いているウェディングドレスのデザインの概念と概ね一致している。

2019年のトレンド情報を分析した結果、形を示唆する用語が多く、シルエットよりディテールが多い。リアルクローズのトレンドにおいても、シルエットよりディテールのトレンド変化は著しいため、毎シーズン多くの提案がある。リアルクローズのファッショントレンドの提案と類似性が確認できる。「ロング・スリーブ」はロイヤルウェディング、「オフショルダー」や「パワーショルダー」はプレタポルテの影響を受けている。イメージを示す用語は、ディテールとイメージと関連していることが示唆できた。しかし、これらはまだデータ数が少なく、検証するまでに至っていないため、継続して注視していく。

今後は、本研究で明らかにしたデザインの基礎資料をさらに精査して深めていく。例えば、専門家によると、ウェディングドレスの下に着装するパニエはシルエットを作る上で重要であるとしている。パニエとは、スカート部分を広がらせるため、張りのあるメッシュ、ゴーズ、

チュールなどの布で作ったアンダースカートのことをいう。今回の基礎資料では、パニエについては詳細な調査を行っていないため触れていない。次研究では種類や名称を付け加え、シルエットとパニエとの関連について検討して、ウェディングドレスにおけるデザイン資料の完成を試みる。

そして本研究で用いたウェディングドレスにおけるデザイン・トレンドの分析方法は、2019年のトレンド、傾向、表現が導き出せた。引き続きデータ数を増やして研究を進める。さらにプレタポルテで発表された2シーズン後にブライダルのトレンドとなる現象は、精査しながら継続的に検証する必要がある。また、2019年のトレンドのシルエットやディテールが次シーズンにはどのようにデザイン展開されるのかなどを課題としていく。

注

i) (株) リクルートマーケティングパートナーズが企画運営する結婚情報誌『ゼクシィ』が実施している調査。結婚スタイルについて詳細に把握する目的で、毎年「結婚トレンド調査」を行っている。1994年に首都圏で開始した調査は、年々調査地域を拡大し、現在では15地域による全国規模の調査を実施している。ブライダル総研公式サイト http://bridal-souken.net/research_news/2018/10/181018, 2019年5月15日閲覧

ii) 新婦の衣装の種類についての設問結果。複数回答、調査数784

iii) ファーストレンタルは、レンタルされて着古したドレスでなく新品のドレスをレンタルする意味。

iv) トrend (傾向、時代の風潮、その時々) の流行の型) などの意味。

v) エディターとは編集者のことで、本や雑誌の企画、編集から取材までをこなす本作りの専門職のこと。

vi) ロイヤルウェディングとは、王室の結婚式のこと。世界的にも注目度が高く、その後のウェ

ディングの流行を作ることにも少なくない。ゼクシィ net 公式サイト <https://zexy.net/contents/yogo/>, 2019年6月6日閲覧

vii) OEM (Original Equipment Manufacturer) は、相手先のブランドで販売される製品を製造すること。ODM (Original Design Manufacturer) は、情報収集に基づいた商品の開発、製造までを手がけること。

viii) テクスチャーとは、視覚的、触覚的に感じられる凹凸感、ソフト感、ハード感、ドレープ性、つや、ぬめり感などのあらゆる感触。

ix) 『VOGUE JAPAN』のウェブサイトは2000年に誕生、世界のファッションをはじめ、さまざまな最新トレンドを扱い、より多く質の高い多様な情報を発信している。

x) ウェディング情報に特化した『VOGUE wedding』は、2016年に公開された情報では発行部数 35,000部で、世界トップのフォトグラファー及びモデルを多彩に起用、オートクチュールドレスの情報も満載で、日本で最も洗練されたウェディング情報誌と称されている。2000年に誕生したウェブサイトでは、世界のファッションをはじめ、さまざまな最新トレンドを扱い、より多く質の高い多様な情報を発信している。

xi) ネックラインは衿ぐり線を総称することば。カラーは衿の総称。スリーブは袖のこと。

xii) 本来は福島の絹産地で、重厚な最高級シルクを日本の最高位の「帝」に見立てて「ミカド・シルク」と命名したもの。当初ニューヨークに輸入され、その後ヨーロッパでウェディングドレスに使われ「ミカド・シルク」と呼ばれるようになった。

x iii) コレクションなどのためではなく、普通の生活で実際に着られている衣服や、他のものと組み合わせた目的に用いることができる衣服などをいう。

x iv) ゼクシィ net 公式サイトでは、ゼクシィ結婚トレンド調査2018のデータを基に、2019年のドレストrendや旬のデザインも紹介してい

る。vi) に同じ。https://zexy.net,2019年 9 月 1 日閲覧

引用・参考文献

- 1) 田中千代.服飾事典,同文書院,1999年 3 月27 日,p.79-80
- 2) ブライダル業界の動向とカラクリがよ〜くわかる.秀和システム, 2018年 8 月 3 日, p.117
- 3) ゼクシィ結婚トレンド調査 2018. (株) リクルートマーケティングパートナーズ, 2018年 10月,p.113-240
- 4) ゼクシィ net 公式サイト.https://zexy.net/article/app000101185/.2019年 9 月 3 日閲覧
- 5) Harper's BAZAAR 公式サイト.https://www.harpersbazaar.com,2019年 9 月 1 日閲覧
- 6) 長田美智子.ウェディングドレスのデザイン分析ーネックラインと他の要因との関係ー, 服飾文化学会誌vol.5 No.1,2004年 2 月10日,p.89-98
- 7) ウェディングプランナー資格 1 級公式テキスト.一般社団法人職業技能振興会, 一般社団法人JWPA国際ウェディングプランナー協会, 2017年10月 1 日,p.231-258
- 8) The Business of Japanese Weddings.全米ブライダルコンサタント協会,2015年 3 月
- 9) 4) に 同 じ。 https://zexy.net/dress/search/design/.2019年 9 月 1 日閲覧
- 10) 河合玲.グローバル・ファッションと商品企画, (株) ビジネス社,1997年 5 月20日,p.354-365
- 11) 宮武恵子,吉田ありさ,乾滋.ファッション・デザイナーのテキスタイル選定プロセスー創造的発想における基準と項目の可視化ー,日本感

- 性工学会春季大会,2016年 3 月,
- 12) Vogue公式サイト.https://www.vogue.co.jp/wedding,2019年 8 月17日閲覧
- 13) Fujisan Magazine Service Co. Ltd.公式 サイト, https://rakuten.fujisan.co.jp/product/1281694513/,2019年 8 月23日閲覧
- 14) New York Times.https://www.nytimes.com/2006/12/03/books,2019年 9 月 3 日閲覧
- 15) Condé Nast Japan公式サイト. https://condenast.jp/wp-content/uploads/2017/03/VOGUE-Media-Kit-2017-01-E.pdf,2019年 9 月 3 日閲覧
- 16) The Business of Japanese Weddings.全米ブライダルコンサルタント協会,2015年 3 月
- 17) 成田典子.テキスタイル用語辞典, テキスタイルツリー, 2012年 2 月25日
- 18) 服地の基本がわかるテキスタイル事典.ナツメ社, 2014年11月 1 日
- 19) 服飾デザイン.文化出版局,2014年 1 月27 日,p.27
- 20) DETAL 2000.日本色研事業 (株) ,2010年 3 月14日,p.60-112
- 21) 12) に同じ
- 22) 吉村誠一.ファッション大辞典, 織研新聞社,2011年 4 月 1 日,p.653
- 23) 小川龍夫.新版ファッションアパレル辞典, 織研新聞社,2013年 5 月10日,p.1140
- 24) 宮武恵子.ファッション・デザイン発想に 関しての知見ーコレクション分析を基にした ファッション・トレンド情報ー,第17回日本感 性工学会大会,2015年 9 月 3 日